

雨飾山山行報告

【山行日】2024年 7月 7日(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 3,800円

【メンバー】CL:鈴木ユ、SL:藤原ト、

嶋田、鈴木ミ、野口、廣瀬ナ、福島、吉田

【コースタイム】岩舟支所 P3:00=雨飾高原

P6:05/6:25~荒菅沢 8:00~笹平 9:20/9:30~

雨飾山 10:00/10:55~笹平 11:20/11:30~

荒菅沢 12:20~雨飾高原 P13:55/14:15=

岩舟支所 P18:40



山行アンケートで雨飾山に花の時期に登りたいとリクエストがあり、ハテ、雨飾山は花の百名山ではないし何の花が有るのだろうと思いガイドブックで調べてみた。何の花と明記されていないが、笹平はお花畑になるようなので7月初旬に計画した。駐車場が心配なので岩舟支所を3:00に出発し、



北関東道から上信越道を走り更埴ICで降りる。ここから県道35号線から国道19号線、オリンピック道路、国道148号線と270Kmのロングドライブで雨飾高原の駐車場に着く。駐車場はすでに満車だったが、一番奥の草地に1台分のスペースがあり無事止めることが出来た。準備を整えてトイレとストレッチを済ませたら出発する。登山口からゆるやかに下って行き、平坦な道を進むと小沢沿いの木道を歩くようになる。木道が終わると本格的な登山道になり、樹林帯の急坂を登るようになる。やがてブナの

林の中を登るようになり、大きなブナの木の下が平らになっている場所で小休止して衣服調整する。この先にブナ平と標識が立ち、簡単なベンチもある。さらに広葉樹の樹林帯を登って行くが、登山道には小谷村が設置した1/11~11/11のポイント表示板があり現在の位置が把握できてありがたい。登り切ると急な下りになり、下り切った所が荒菅沢と云う雪渓に出る。視界が開け雪渓の上部に布団菱と言われる岩峰が聳え、本コース一番のビューポイントである。ところが雪渓上の登山道が、ここ数日の猛暑で崩れ落ち通行できない。雪渓の上部に回り込み、安全な場所を探して一人ずつ慎重に渡る。渡り切ると標高差450mの急登が続き、ガレた急坂をロープや木の根を頼りに登って行く。



さらに木のハシゴや岩場が続き、本日一番の難所を登って行く。森林限界を超えて陽射しをもろに受け、暑さが疲れた体に堪える。岩場を越えて少し平らな場所で休憩し、冷えたスイカを食べて少し



元気が戻った。急坂を登り切ると稜線に出て、少し下ると平坦な草原が広がる笹平に着く。笹平は文字通り笹の原だが、6月には笹の中にハクサンイチゲの大群落がみられるようだ。この時期はハクサンフウロやオオバギボウシ、ミヤマアキノキリンソウ等々が咲き乱れお花畑になっていた。一旦下って雨飾温泉からの道を併せ、山頂への最後の登りとなる。ところが2番手のペースが上がらない。狭い登山道で後ろから来る登山者に迷惑なので、2つに分かれて登ること

にする。F島さんをSLにお願いし、我輩と5人は先行して山頂を目指す。無事山頂に到着し、展望を楽しんでいると2人が到着した。今日は天気が良く展望が素晴らしい。北峰からは妙高山や火打山、そして何と言っても山頂からしか見られない「女神の横顔」を見ることが出来大満足。記念写真を撮ったら南峰に移動し、ランチの場所を確保する。南峰からは北アルプスの白馬連峰や日本海が望め、ランチをいただきながら大パノラマを楽しんだ。ランチが済んだら南峰の石仏群と記念写真を撮り、名残惜しいが山頂を後にする。下山は往路を戻り、荒菅沢の雪渓まで下って来た。今朝渡った場所も、今日の暑さで雪が薄くなりとても危険である。さらに上



部まで登り雪渓の縁を降りて、雪渓が崩れた沢を渡ることにする。前のパーティが降りるのを待ち、1人ずつ慎重に渡る。雪渓の縁の段差が大きく、降りる斜面も急なので滑らぬよう慎重に降りる。2番手のF島さんが斜面に足を取られ雪渓の下に落ちたが、大事は至らず全員無事に渡渉することが出来た。荒菅沢から登った安全な場所で休憩し、冷たいゼリーをいただき疲れた足を休める。ここからは危険箇所も無く順調に下り、無事雨飾高原駐車場に帰着した。まず自販機に行き、冷たいポカリス



エットをゲットし一気に飲み干した。トイレを済ませ靴を履き替えたら、車に乗り帰路に着く。帰りも来た道に戻り、道の駅「なかじょう」でお買い物。帰りの高速道路も渋滞は無く順調に走り、予定よりも早く岩舟支所に帰着した。